

序  
章

誰が子どもたちに、  
お金のことを教えるのか？

金持ち父さんは言った。

「自分の子どもにお金について教えないなら、世間が彼らに情報を吹き込むだろう」

お金なしには私たちの日々の生活は成り立たない。私たちが住む場所、通う学校、日々の食事、移動手段、買い物をする場所や支払いなど、すべてにお金が絡んでいる。好むと好まざるとにかかわらず、お金、あるいは何らかの交換手段は必要不可欠だ。

そして今日、世界はものすごい速さで変化し、お金と、それが人生に与える影響を学ぶことがかつてないほど重要になっている。去年（あるいは先月！）通用したやり方が、今日はうまくいかなくなっているかもしれない。お金の稼ぎ方、使い方、投資の仕方は大きく変わった。私たちは考え方を変え、それらを学ばなければならない。

私が設立したリッチ・ダッド・カンパニーという会社では、「知識は新たなお金である」と言っている。

年齢や経歴、あるいは社会経済的な立場に関係なく、私たちはお金について賢くならなければならない。これは確固たる事実だ。世界経済、そしてお金の役割が変化していく中で、新しい知識を学び、資産の増やし方や経済面での心の平和を構築する戦略を練る機会はたくさんある。

「真の自由」とは、十分なお金がなく、自分や家族が本来享受すべき人生を送れなくなる不安から解放されること。つまり、経済的自由を手にすることだ。

情報化時代、そして止まることのないテクノロジーの進化のおかげで、私たちに降り注ぐ情報の爆弾は数えることさえできない。一部の人が「ファイナンシャル教育」と呼ぶものがあらゆる方向から押し寄せてくる。メディアによるインタビュ、ファイナンシャル・プランナー、経済についての記事やラジオ番組、ポッドキャスト、ニュースレター、セミナー、数え上げればきりが無い。

ここでいくつか注意がある。話をする相手、アドバイスをもらう相手にくれぐれも注意しよう。多くのファイナンシャル・エキスパートは何かを売りつけようとするセールスマンだったりする。一方、本当の教師や専門家は、あなたが最高の財産管理者、未来の設計者になれるようなツールを提供してくれる。

テレビやコマーシャルで、プロスポーツ選手が靴のブランドの宣伝をしたり、有名人が登場して「自宅を担保にして借金一本化ローン（複数の借金をまとめて一つのローンに一本化する。「おまとめローン」とも）を組み、利息の高いクレジットカードの借り入れを返済しよう」と言っているのを目にしたことはないだろうか？

番組の最後に彼らはウィンクしながら言う。

「これはうまいやり方だ。あなたは債務を持つことで、政府から税金の優遇措置を受けられるんだ」

確かに住宅ローン金利は税控除の対象になる。あなたはクレジットカードの高金利の借金を

長期の低金利の負債に切り替えることができる。銀行はあなたに「家は資産ですよ」と言うだろう。だが、それが誰の資産なのかは決して教えてくれない。

小売業者はあなたにささやく。「頭金なし、月の支払いも楽々ですよ」。そして金融機関も同じ調い文句をさえずる。「節約して、長期的な投資をしましょう」。航空会社は自社発行のクレジットカードを使うように勧める。「マイルがたまってタダで旅行ができますよ」

学校さえも同じやり方をする。

今日、多くの若者が数万ドルの学資ローンを背負わされ、学校を卒業する。これが情報化時代に私たちが受ける「お金の教育」だ。だがこんなものが教育と言えるだろうか？

## 学校では教えてくれないファイナンシャル教育

私の著書、『金持ち父さん 貧乏父さん』（二〇〇〇年、筑摩書房）は、私の二人の父に起こった真実の物語だ。一人は金持ちで、もう一人は貧しかった。一人は高い学歴があり、もう一人は学校も満足に終えていない。一人は高給取りの役人だったが、もう一人はビジネスオーナー・投資家として成功し莫大な富を築いた。そして一人は私の実の父、もう一人は私の親友の父親だった。

どちらも有能でダイナミック、そして成功者だった。どちらも正直で勤勉だった。だがお金に関しては、二人の考え方はまったく違っていた。多くの人が、『金持ち父さん 貧乏父さん』

はお金についての本だと思っているが、そうではない。これは教育の本なのだ。

最高の教育を受けた私の父は、人生で成功するには学校での学びが最も大切だと信じていた。一方、父親が亡くなったために家業を継ぐべく学校を中退した「金持ち父さん」は、学校の外で学ぶことも同様に大事だと思っていた。

彼は学校教育の重要性を認めてはいたが、それが財政面での成功をもたらすとは考えていなかった。だから自分の息子と私にお金について熱心に教えてくれた。彼は私たちが学ぶべきこと——学校では教えないが、誰もが知るべきこと、特に今日誰もが知っておくべきことを、何時間も、何日も、何年もかけて私たちに教え込んだ。

かつて、子どもの教育がすべて両親の手に委ねられていた時代があった。狩猟採集時代、父親は息子に狩りの仕方、そして自分の部族の守り方を教えた。また母親は娘に野営地での家事、皮のなめし方、育児を教えた。部族の社会的価値観や、年寄りを敬うこと、諍いの収め方、さらには部族の団結力の基本となる歌や習慣、物語、儀式などは、父母が協力して教えこんだ。

農耕時代の父親と母親は、畑や家業のみならず子育てにも一緒になって取り組んでいたのだ。この時代、親は子どもと密接な関係を持っていた。

次にやってきたのが産業時代、私に言わせれば「ビーバーちゃん (Leave It to Beaver)」(訳注：五〇年代の米国で、ほのほのと理想の家族を描いたTVドラマ)の時代だ。

父親が勤めに出て給与をもらってくる。母親は家事に努め、家族のための巣を作る。子ども

私たちは学校へ行く。つまり重要だと決めたことを子どもたちに教える責任を、国家が担っているのだ。この時代には、まだ家族が一緒に過ごす時間があった。だがその後は徐々に少なくなっていく。

今日、我々は情報時代を生きている。多くの家庭で、両親は共働きで家計をまかなっている。子どもたちは誰もいない家に帰宅し、テレビを観て、父兄によるコーチのもとで組織的にスポーツをし、ショッピングモールで時間を潰し、ゲームをし、インターネットやスマホに何時間も費やしている。

今日の子どもは、両親ではなく数百万もの教師に、直接あるいはネットを通して教育されている。親が子どもたちに与える影響力がずっと少なくなったのはこれが理由だ。

### **誰もがファイナンシャル教育を必要としている**

米国経済教育評議会は一一〇〇人の成人と一一〇〇人の高校生に対し、基本的な経済知識のテストを行った。結果は次のようなものだ。

#### **成人**

6% A 評価

10% B 評価

15% C評価  
20% D評価  
49% 不合格

高校生

3% A評価  
7% B評価  
11% C評価  
13% D評価  
66% 不合格

なんと成人の六九%、高校生の七九%がC未満の成績だった。さらに驚きなのは、彼らが正解できなかった問題が簡単極まるものだったことだ。それは「インフレ」や「需給サイクル」などについてだった。

幸いなことにこうした状況は変わり始めている。人々はファイナンシャル教育の必要性を自覚し始めている。だが疑問は残る。そうした変化は時代に追いつけるのだろうか？ また、人々が得る情報は現実に対処するに十分だろうか？

## 今までは異質の情報時代

「封建時代」、豊かだったのは統治者とその取り巻きだけだった。「産業時代」には、より多くの人々が富を分けあつた。「情報時代」の今日、大きな富を得る可能性は大衆にまで広がつた。今日では誰もが豊かになれる。それも今までよりずっと短期間で。

マイクロソフトの創業者、ビル・ゲイツがいい例だ。彼は三〇代の頃、すでに世界一の富豪だった。電気自動車メーカーのテスラ (Tesla) や、民間宇宙企業スペースX、そしてソーシャルメディアのX (かつてのTwitter) のCEO (訳注：現在はCTO) であるイーロン・マスク、フェイスブックの創設者マーク・ザッカーバーグ、アマゾンを作つたジェフ・ベゾスなども若き大富豪だ。

最近では自力でビリオネアとなつた二〇歳の若者さえいる一方で、年に五万ドルを得ようと四苦八苦している団塊世代がいる。彼らは貧困にあえいでいる。それは「安定した仕事に就け」という親世代のアドバイスに従っているからだ。彼らは、時代が変わりかつての善意の助言がもはや時代遅れになつたことを理解していない。

「安定した仕事」が悪いわけではない。多くの人にとって、それは最も賢く安全な未来への道のりだ。未来への航路を決める際の選択のひとつ、コインの一方の側だ。

だが、人生のどの時期においても、人があまり行かない道を選んで、今後何十年も語り継が

れるような成功物語の主人公への道を私たちの誰もが選択できるというのは実にエキサイティングなことだ。

歴史家によれば、大きな変革は五〇〇年ごとに起こるといふ。一四九二年、クリストファー・コロンブスは紺碧こんぺきの海に帆を上げた。一九八九年、ベルリンの壁は崩れ去り、インターネットが世に広まった。この出来事が産業時代の終焉、そして情報時代の始まりであると主張する人もいる。だが残念なことに、多くの人がいまだに工業時代のルールに縛られ、工業時代の教えを情報時代の子どもたちに教えている。自分たちが親から受け継いだアドバイスを。

二一世紀の今、私たちはますます加速する変化を目撃している。多くの人々が、財政的な厳しさが増していくのを実感するだろう。一方、ある人々はかつての王侯貴族よりも多くの富を手にするだろう。情報時代の利点の一つは誰もがより多くの情報にアクセスできることだ。そして、金持ち父さんが言うように「知識は新しい時代のお金」なのだ。